

「笑顔」と「つながり」

人権ってなあに？

人権ってなあに？って聞かれるとどう答えますか？

憲法に保障された基本的人権……

同和問題や外国人、障害者、高齢者等の人権課題……ということなのですが、
違った角度から言えば、それは人が

笑顔で過ごすことであり、**豊かにつながる**ことなのです。

尼崎出身のある有名なタレントさんが

「人は何のために生きるのか、それは笑うためだ」

とテレビで話されていました。

そうですね、私たちの生活で

「笑い」つまり「笑顔」になる時、人は幸せな気分になっています。

そして、「笑顔」が、潤滑油になって人と人をつないでいきます。

そうですね「笑顔」と「つながり」は、人を幸せにするのです。

「笑顔」と「つながり」は、素敵な街をつくり出していくのです。

家庭で、学校で、職場で、地域で

そんな**「笑顔」と「つながり」**のタネをまきましましょう。

そして人権の花を咲かせましょう。



10秒の愛

子どもって、
忙しいときに限って、寄ってきます。
子どもって、
なかなか さっさとできません。
子どもって、
なかなか はっきりと言えません。

10秒
待とう



でも
たった10秒でいいのです。まず子どもを抱
きしめてあげてください。
たった10秒でいいのです。「早くー」って
言う前に待ってあげてください。
たった10秒でいいのです。せかさずに、じ

っと聞いてあげてください。

すると、そこに「笑顔」が生まれます。

そこに「つながり」が生まれます。

たかが10秒、されど10秒

「10秒の愛」は子どもを幸せにするのです。

10秒待ったら、 子どもは成長！

ある幼稚園での出来事です。

迎えにきたお母さんに、走り寄ってきた

我が子が目の前でス

ッテンコロリン。

子どもは泣きました。

でもお母さんは起こ

してくれません。

「自分で立ってよ」

そう言いながらお母

さんは10秒間待つて

います。

えらいねえ、
よくがんばったね



子どもは泣きながら自分で立ち上がりま

した。すると

「えらいねえ、よくがんばったね」

と言いながらお母さんは我が子を10秒間

ぎゅっと抱きしめました。

そのとたん、子どもの顔は、泣き顔から

笑顔に変わりました。

たった10秒間ですが、待つのはけっこう難しいも
のです。でも10秒間たつと、こんな笑顔が生まれ
ます。子どもに対して、10秒間待ってみましょう。
すると自分で立ったり、自分で話したり、自分で
動き出したりするなど：子どもの成長が必ず見え
ますよ。そして10秒間抱きしめてあげましょう。
すると、そこに子どもにも親にも、すばらしい笑
顔の花が咲くのです。

声かけたり、 ええことあるよ！

ある町での出来事です。

中学校の近くに交差点がありました。

そこを通る中学生に地域のおばさんが声

をかけました。

「あんたら、気づけて帰りや」

すると中学生は

「うるさいな、なんでおぼはんに言われなあかんねん」

おぼさんは

「心配やから言ったんや、気づけて帰りや」
「……」

中学生は無視して行ってしまいました。

数日後、またおぼさんは声をかけました。

「気づけて帰りや」

するとあの中学生は

「おぼはんも気づけて帰れよ」

と返事が返ってきました。

1週間後、おぼさんが、夜、駅前を歩い

おぼちゃん、
気づけて帰りや



ていると、向こうからあの中学生が

自転車に乗ってやってきました。そして、すれ違いざまに

「おぼちゃん、気づけて帰りや」

と声をかけたのです。

あつという間に通り過ぎた中学生の後姿に

「ありがとうー」

と言いながら、おぼちゃんの心は温かくなり、そして笑顔がこぼれました。

地域の子どもたちは「地域で育てる」・・・そんなあたり前のことがだんだん薄くなってきました。でも思い切って声をかけると子どもたちは、やっぱりうれしいのです。大人の「体温のある言葉」は、子どもの心に、必ず響いていくのです。子どもの中はそんな地域の人の言葉を待っているのです。

「笑顔」と「つながり」のタネ。 その3

絵本を読むと、 あたたかくなるね

ある親子の出来事です。

毎晩、寝る前に、お父さんは娘に絵本を読んでいます。

今日も一緒にふとんに入り、お父さんの声が娘の心に入っていきます。

絵本を読み終え、お父さんは部屋の電気を消しました。

すると、娘は

「パパ、これ見てー」

と言って、ふとんの横に置いてあった懐中電灯を天井に照らしました。

そして、娘は天井に字を書き始めました。

「パ・・・パ・・・だ・・・い・・・す・・・き」

いくら楽しいテレビゲームが出てきても。やっぱりお父さんやお母さんの読む絵本には勝てないのです。お母さんやお父さんの声は、魔法の声です。それは、子どもの心の銀行にたまっていく温かい貯金になるのです。



人間のいい者順に 一列に並べ！

卒業前の6年生の教室で起こった出来事です。

先生が、突然

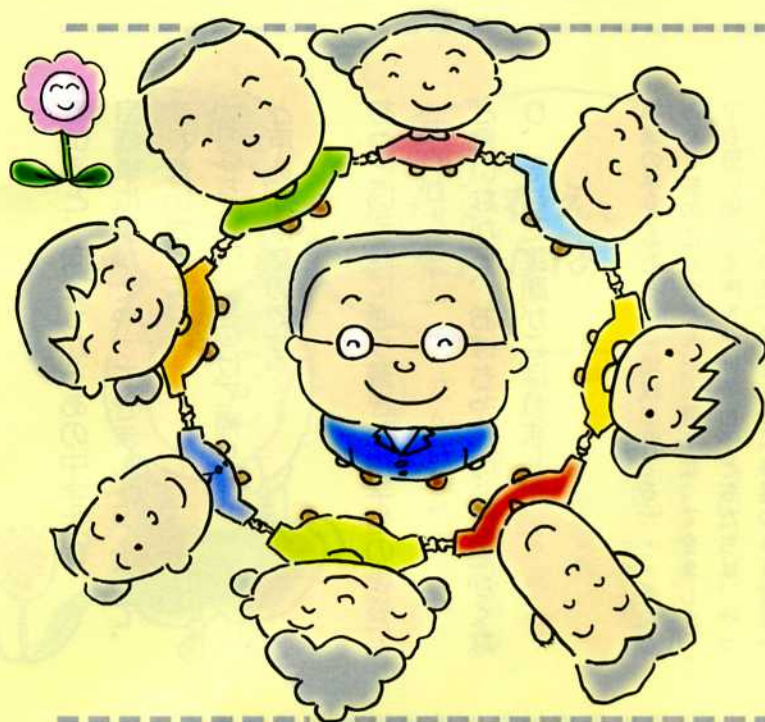
「このクラス35人いるけど今から、『人間のいい者順に一列に並べ！』と言いました。

「誰が一番いい人間や、誰が一番悪い人間や、言うてみるよー」

そんな突然の先生の呼びかけに子供たちは反発します。だって先生は今まで、人間はそれぞれの個性があつて、それぞれのいい所や悪い所があつて、けつして順位はつけられない、と口をすっぱくして言い続けていたからでした。

でも、先生は「人間のいい者順に一列に並べ」と言い続けます。おかしなことを言う先生と子供たちの言い合ひは、続いていきましたが、あまりにしつこい先生の態度に、これは何か変だと気づいた子どもたちは

「先生は職員室に戻つて！。あとは私たちだけで考えるから」



と先生を教室から追い出してしまいました。そこから子どもたちの白熱の議論が始まりました。考えに考えぬきました。1時間後、日番の子が先生を呼びに行きました。そして教室に戻ってきた先生に子どもたちはその解答を見せたのです。

子供たちは、教室の机といすをうしろにして教室の前を広くして、そこで、男女が交互になって、中を向いて、一つの輪になっていたのです。先生はその輪の中に入り、「よく考えたな、これが正解や。こうやって一つの輪になると、全員顔が見えるだ

ろ。うれしそうな顔をしている友達がいれば一緒に喜べるし、悲しそうな顔をしている友達がいれば、そばに行つて声をかけてあげることが出来るだろ。こうやって輪になれば、人間はつながっていけるんだよ。これからの人生、苦しいこともあるだろうけど、人間はこうやって輪になつていけば、それを乗り越えていくことができるんだよ」そうやって先生は涙を流したあと、笑顔で全員と握手をしました。

■ 最高の「笑顔の輪」が、そこにできました。学校にも、家庭にも、そして地域の中にも、そんな輪をつくれれば、きっと一人ひとりが生き生きと元気になるにちがいありません。まずは、あなたのまわりから、その「輪」をつくり始めませんか。

著者紹介

仲島 正教 (なかしま まさのり)

1956(昭和31)年生まれ。1979(昭和54)年より西宮市で小学校教師として21年間勤務。その後西宮市教育委員会指導主事を5年間勤め、2005(平成17)年3月に退職。現在は教育サポーターとして活動中で、ここ6年間で人権教育や子育て等の講演数は400回を超えている。若手教師パワーアップセミナー「元気が一番」塾主宰。主な執筆には、「最後の授業」(同和教育にのみや)「優しさというビタミン愛」(西宮市人権冊子)「教師は足でかせくもの」(人権ジャーナルきすな)「西光さんからの伝言」(ひょうこの人権教育)等がある。

発刊にあたって

この冊子は市民のみなさんに人権について考えていただくために作成しました。

家庭や地域・職場などの話し合いや人権学習の資料として、ご活用願えれば幸いです。

人権教育資料